

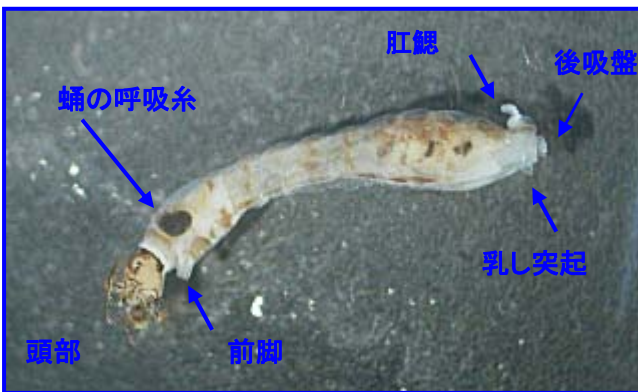
ブユ幼虫の各部の形態

幼虫の種類を分けるときに重要な各部を紹介します。使用している幼虫は、ウチダツノムブユです。(使用している幼虫は、2008年3月31日に京都市伏見区の場合川で採集した個体です。)



体色

幼虫は、頭部、胸部、腹部に分かれます。
幼虫の体色も種類によって異なります。微妙な違いを見分ける必要もありますが、幼虫の種類を分けるのに非常に重要です。



乳し突起

腹部の末端部分に乳し突起と呼ばれる円錐(えんすい)形の突起を持つ種類があります。ツノムブユ亜属と呼ばれるグループの一つの特徴です。



後吸盤

腹部末端に細かい鉤(かぎ)状の列が円形に並びます。幼虫は、この後吸盤を使って、河川に垂れ込んだ草木や河川の底の石に吸着しています。後吸盤の上にX状の器官があります。このX状の器官の上に肛鰓(こうさい)があります。

肛鰓

腹部末端に水中の溶存酸素を取り入れる肛鰓と呼ばれる薄い膜状の器官があります。標本の作り方によっては、内部に入り込んでいることもあります。



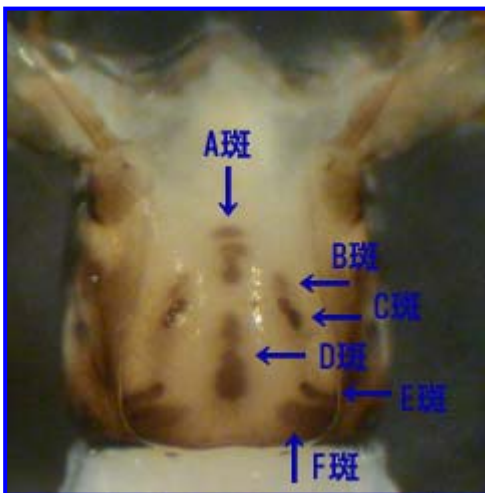
サナギの呼吸系

サナギになる前の幼虫には、胸部にサナギの呼吸系になる器官が形成されます。渦巻状に収まっていますが、幼虫から取り出すと呼吸系の本数や形が分かります。幼虫の種類を特定するのに非常に重要な器官です。



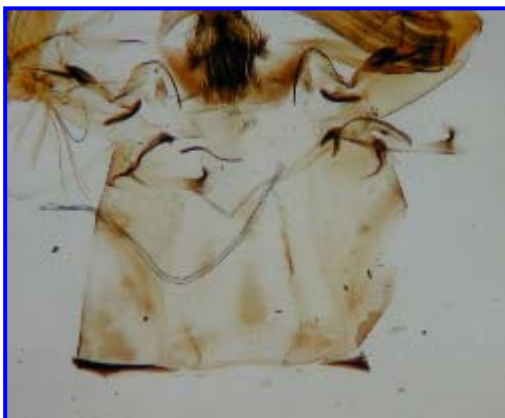
口刷毛

頭部の背面には、口刷毛(こうざつもう)と呼ばれる放射状の毛があります。この毛は、水中で餌(えさ)を集めるために使われています。クロオオブユは、口刷毛を持ちません。また、種類や幼虫の成長に伴って毛の本数が異なります。



モザイク模様

頭部の背面には、モザイク模様があります。それぞれの模様には A~F 斑(はん)までの名前がついています。種類によって、色が抜けたり、斑が連続したりすることがあります。ただ、脱皮直後では、色が薄いこともあります。



モザイク模様

プレパラート標本にすると、詳細な形状が観察できます。

立体的な構造の頭部を無理やり平面的にしますので、多少、形状や色が変わります。



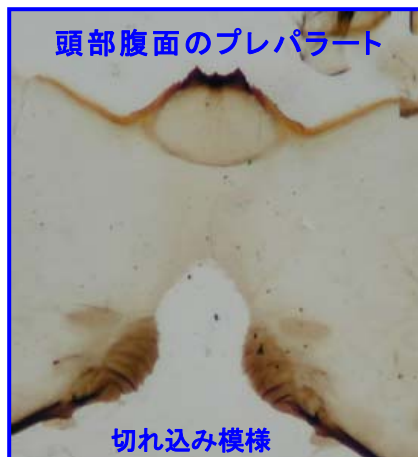
頭部腹面の切れ込み模様

幼虫の頭部の腹面には、切れ込み模様があります。種類を分ける上で非常に重要です。

前脚

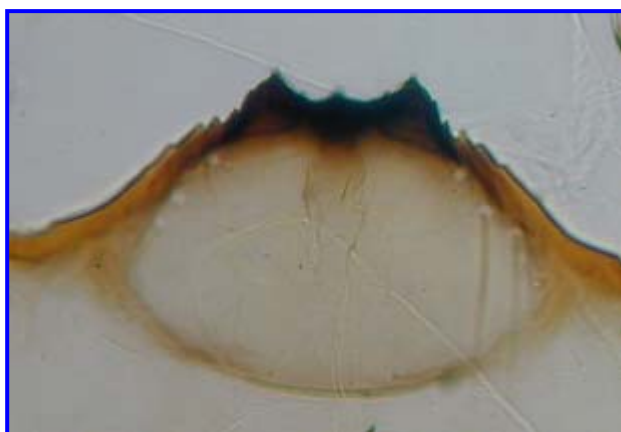
胸部に前脚と呼ばれる器官があります。後吸盤と同様に小さな鉤(かぎ)が円形状に並びます。幼虫が水中でシャクトリ状に歩行するときに使いま

す。



切れ込み模様

プレパラート標本にすると、詳細な形状が観察できます。
立体的な構造の頭部を無理やり平面的にしますので、多少、
形状が変化します。



亜下唇基節

亜下唇基節(あかしんきせつ)の先端部分にノコギリ状の歯があります。属や種類を分けるときの参考になります。